7

[illegible]

判

依[illegible]如件

将軍家

御判

下　松浦波多源蔵人披

可令早領知肥前国松浦

波多庶子等跡同国下松浦

伊万里三郎子等跡事

右為勲功之賞所宛行也者

将軍家
御判

下 松浦波多源藏人披

可令早領知肥前国松浦

波多庶子未沈同国下松浦

伊万里三郎未沈事

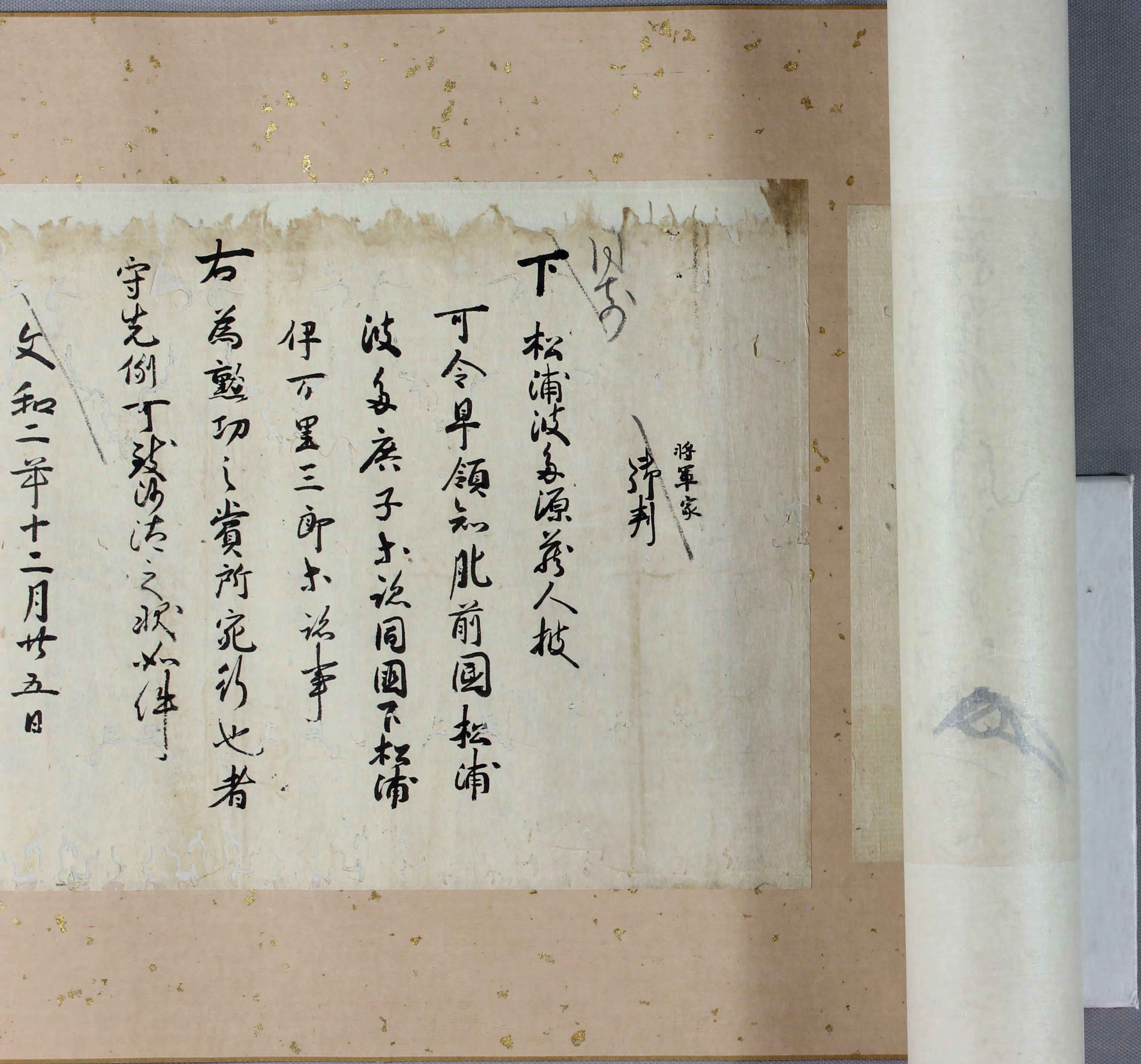
右為勲功之賞所宛行也者

要[illegible]所[illegible]警固[illegible]

[illegible]

[illegible] 判

佐志寺田阿波次郎殿



将軍家
御判

以本

下　松浦波多源蔵人披
可令早領知肥前國松浦
波多庶子等跡同國下松浦
伊万里三郎等跡事
右爲勲功之賞所宛行也者
守先例可致沙汰之状如件
文和二年十二月廿五日

[illegible]

[illegible] 判

佐志寺田阿波守殿

以本

将軍家
御判

下　松浦波多源藤人披

可令早領知肥前国松浦
波多庶子等跡同国下松浦
伊万里三郎等跡事

右為勲功之賞所宛行也者
守先例可致沙汰之状如件

文和二年十二月廿五日

佐志寺田[illegible]

[illegible]

文和二年十二月廿五日

佐志寺田上両[illegible]
由[illegible]
賊船之[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]罷[illegible]
[illegible]人
未罷[illegible]
寺田御[illegible]
急[illegible]
[illegible]賊船[illegible]

其罷持候[illegible]

寺ゝ御之所務[illegible]

急度可申出無之[illegible]

然上ハ殿様[illegible]

[illegible]也[illegible]

三月十九日[illegible]

宝[illegible]殿まいる

参御

中

[illegible]状具書木綱副

猶可申付候

将軍家
御判

鎮西退治事所被馮思食也早
可属左京大夫氏経手令発向
相待下着之状如件
延文六年二月廿五日　御判
上松浦人々中

六一到来

為御
申状具書如此副
進之可計申之

将軍家
校行

鎮西退治事、所被憑思食也、先自
一方差遣左京大夫氏経也、可令随其
相待下着之状如件

延文六年二月廿三日　御判

上松浦人々中

[illegible]

右京大夫
校行

為鎮西御退治、先自一方發向
被申之上、相待下着[illegible]之[illegible]
恐々謹言

二月廿三日　　氏経在判

上松浦人々中

可令早班嶋右衛門三郎
浠領知筑前國那珂東郷岩
門拾分壹（金田六郎左衛門尉跡）事

右依去年石門合戦之忠、所被

上村備人々中

右京大夫判
　様ゟ

而後〻御覧退治之由一ヶ條令

誠目出候仍被下着到之状候

恐々謹言

二月廿二日

氏経在判

上村備人々中

可令早班嶋右衛門三郎

沛領知筑前國那珂東郷岩

門拾分壹

（金田六郎）

[illegible]事

[illegible]

[illegible]被仰下[illegible]

恐々謹言

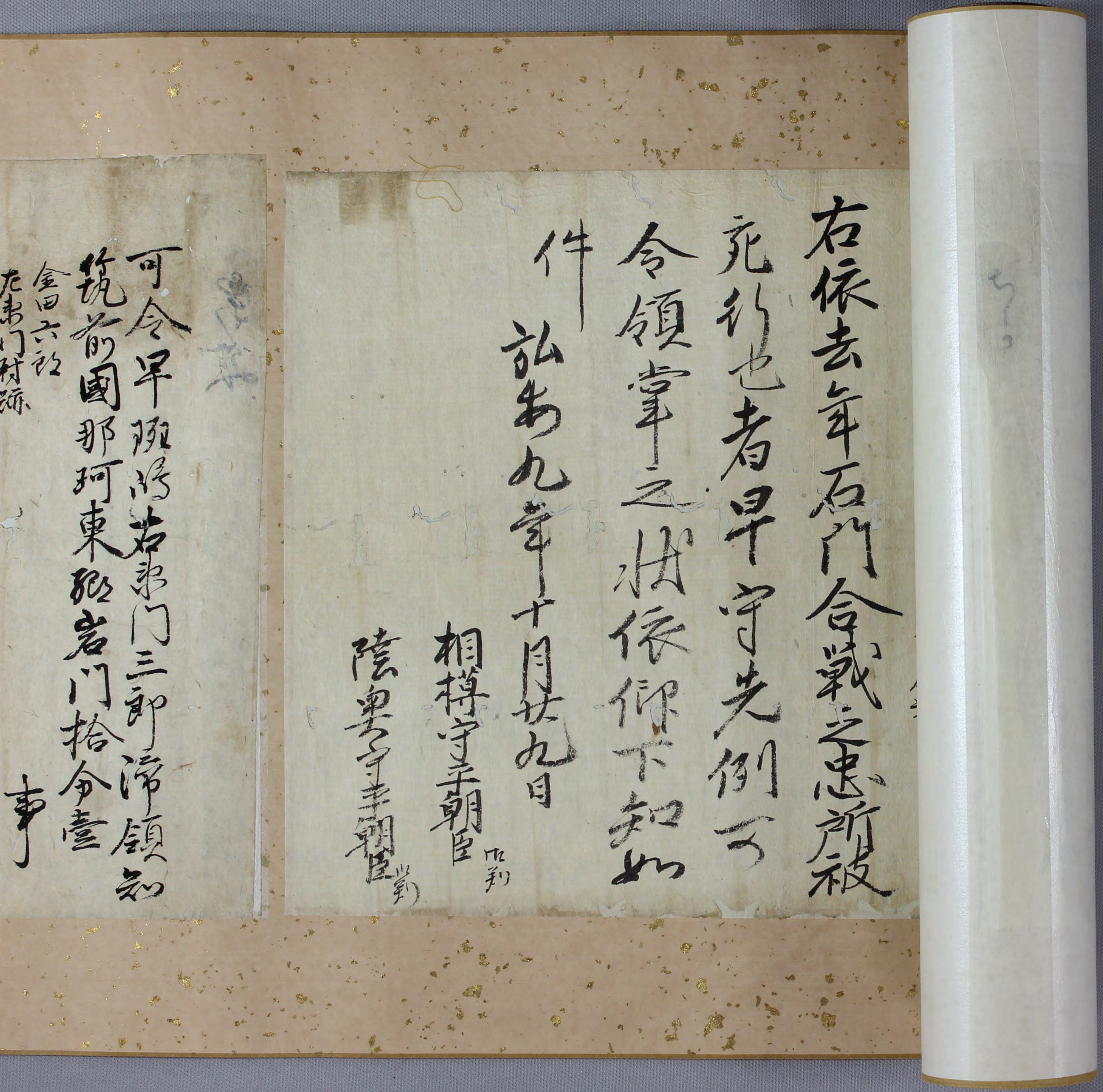
二月[illegible]日

氏[illegible]在判

上松浦人々中

可令早斑嶋右衛門三郎
渟領知筑前國那珂東郷岩
門拾分壹（金田六郎左衛門尉跡）事
右依去年石門合戰之忠所被
宛行也者早守先例可
令領掌之狀依仰下知如
件
弘安九年十月廿九日
相模守平朝臣（在判）
陸奥守平朝臣（在判）

可令早斑嶋右衛門三郎渟領知
筑前國那珂東郷岩門拾分壹（金田六郎左衛門尉跡）事
右依去年石門合戰之忠所被宛
行也者早守先例可令領掌之



右依去年石門合戦之忠、所被
宛行也者、早守先例、可
令領掌之状、依仰下知如
件、
弘安九年十月廿九日
相模守平朝臣（在判）
陸奥守平朝臣（在判）

可令早預所右衛門三郎跡領知
筑前國那珂東郷岩門拾分壹
金田六郎
左衛門尉跡
事

令領掌之状依仰下知如
件、

弘安九年十月廿九日

相模守平朝臣（花押）

陸奥守平朝臣（花押）

可令早斑嶋右衛門三郎渟領知
筑前國那珂東郷岩門拾分壹（金田六郎左衛門尉跡）事

右、依去年石門合戰之忠、所被宛
行也者、早守先例、可令領掌之
状、依仰下知如件、

弘安九年十月廿九日

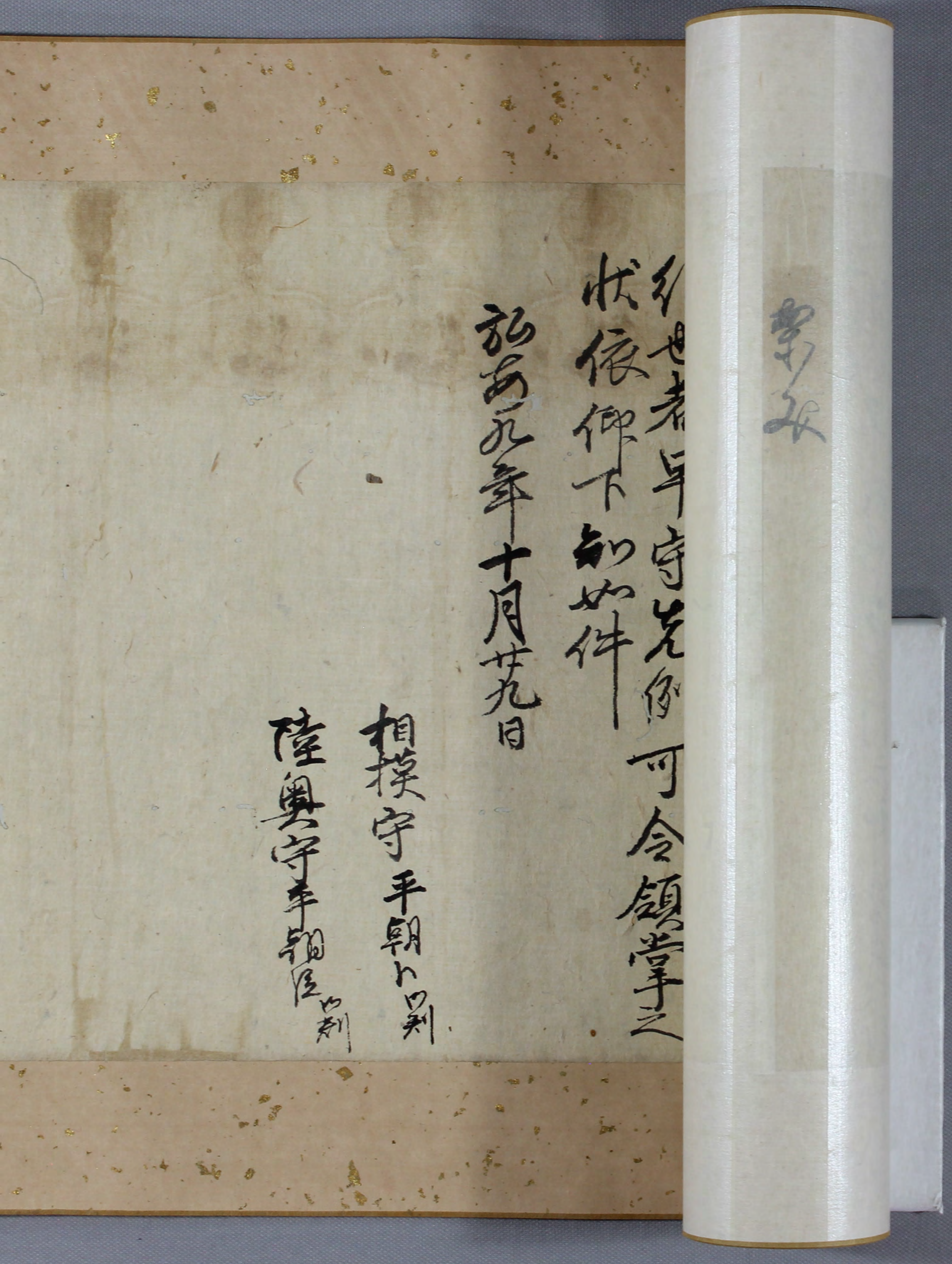
相模守平朝臣（花押）

陸奥守平朝臣（花押）

肥前國御家人斑嶋源次郎入道行覺謹言上

欲早顧非分押領之科不實[illegible]內藏寺上座[illegible]

同家内[illegible]所成敗之條[illegible]若次郎[illegible]



也者早守先例可令領掌之
状依仰下知如件
弘安九年十月廿九日
相模守平朝臣在判
陸奥守平朝臣在判

案文

陸奥守平朝臣

肥前國御家人斑嶋源次郎入道行覺謹言上

欲早蒙御顧、非分押領寄郡科不遂所被書上者任

同宋所下知并所成敗去依前進先名田相違

和田并蘭土同國所衍執行册後三郎定押領

間事

副進

御教書案

右子細言上先畢、定不遂所何書々上者、任定法

被経御沙汰、言上如件

文保二年十月　日

松浦波多大和守祝後家源氏代定慶謹言上

欲早且任譜代相傳并安堵御下文旨、且依代々

討死忠勤賞、被弃捐下野守武等構虚誣、蒙

御成敗、波多一跡本領等一同事

右、波多波多村者為累代相傳之地、同文永三郎勝

[illegible]文書

和田寺薗土同国内村執行丹後五郎定相候

間事

副進

御教書案

件子細言上先畢定不審所被成御書之上者任定法

内致沙汰所仰者恐々言上如件

文保二年十月日

補[illegible]大和守兄藤原家[illegible]

由被経所沙汰宛行之状如件

文保二年十月 日

松浦波多大和守祝後家源氏代定慶謹以言上

欲早且任諸代相傳并安堵御下文旨、且依代々
討死忠勤實、被弃捐下野守武等掠訴、蒙
御成敗、波多一跡本領等[illegible]事

右、於波多村者、為累代相傳之地、自波多三郎勝
源太以今相續迄于祝、世々相承之段、代々手継等明白也、随
而於肥後國板井原御陣、氏女下賜一圓安堵御下文
成入部之思剋、依忠賞以守長支〻之間、下合慈辞于今
閣之處、武并舎弟等不顧押妨自由罷科、〻返氏女遂亂之
由掠申之條、希代濫訴也、為上裁無相違、雖令安堵氏女
當知行之地者、壁鳴泉村許也、偏有名無實所詮、於
氏女者、代々為深重御方、祝并祖父被令討死忠節、何
可被准擬武哉、次波多一跡所々事、是又如先段言上、代
々相承之至、以驗并讓状等炳焉之上者、嚴密被停
止武等非訴、任先日安堵御裁許之旨、為蒙一圓御成
敗、粗以言上如件

明徳四年十月 日

源大丸今相續迄于祝世相承之跡代々年継等明白之随

而於肥後国板井原御陣氏女下賜一圓安堵御下文

成入部之思處作意濫々守長冬々之間下合戦于今

閣之處武并舎弟等不顧押妨自由罷科之返氏女違乱之

由掠申之條希代濫訴也爲上裁無相違雖令安堵氏女

當知行之地者僅鳴泉村許也偏有名無實歟所詮於

氏女者代々爲深重御方祝并祖父被令討死記忠節何

可被准擬武哉次彼多一跡所々事是又如先段言代

之相承之至以驗并譲状等炳焉之上者厳密被停

止武等訴訟任先日安堵御裁許之旨爲家一圓御成

敗粗言上如件

明徳四年十月　日

[illegible]
武等掠訴任先日安堵御裁許之旨為蒙一圓御成
敗粗文言上如件
明徳四年十月　日

松浦波多大和守祝女子源氏代定慶謹言上
欲早且任譜代相傳并安堵御下文旨且依
代々討死忠勤被弃捐下野守武等掠訴
重蒙御裁許波多源大々迄一跡所事
右於波多村已下所々等者為累代相傳之地
自波多三郎勝源以来迄今相續、以来迄子等者
祝母也氏女祖母次第相承之證文等明白也依
此於肥後國杉井原御陣、氏女賜安堵御下文之
間成一圓知行之思剋、仍志佐壹岐守長文之
時分干今乍合秋對圖之處、武并合弟等不
顧自由押妨罪科、氏女違乱之由遂奉掠　上
裁之條、希代濫訴也、彼地事無相違雖賜安堵
氏女當知行分者已上壁鳩泉南村之外無是有
名無實之條、無其隱歟、所詮於氏女者、代々父祖
為不變深重御方祝并祝々父被令討死畢、忠節

氏女當知行分者已上壁嶋泉南村之外無是有
名無實之條無其隱歟所詮於氏女者代々父祖
爲不變深重御方祝并祝々父被令討死畢忠節
何可被准據哉去武晴次坊一跡事如先度言上氏
女代々次第相承之旨證狀等明鏡也然早嚴密
被停止武等於所詐任先日安堵旨爲預一圓知
行御成敗粗言上如件
明德四年十月　日

肥前國鹽嶋源次郎入道行貴言上
欲早賜御下知上者被停止
同國伊佐次郎宗非分押領當（但元亨年中進止）
嶋志佐浦近元名佐々與曽嶋（未決）
段下地田畠等押領事
副進　一通　案
右彼升子細者去一年而當人押
御下知行貴父重代相傳所領也
業所領之間難被申　御教書被下

仁　言亮志菫被申村下野守武等掠訴

重蒙御裁許波多源次入道々巧一跡所事

右於波多村已下所々等者、為累代相傳之地

自波多三郎勝源入道々巧令相續、沢乗巧女子者

祝世氏女祖母次第相承之讓手継等明白也、依

此於肥後國松井原御陣、氏女賜安堵御下文之

間、成一跡知行之思、剰佐志菫等、守、長文之之

時分、于今乍令掠對閣之處、武并舎弟等不

顧自由押妨罪科、致氏女違乱之由、還奉掠　上

裁之條、希代濫訴也、彼地事、無相違雖賜安堵

肥前国斑嶋源次郎入道行覚謹言上

欲早任関東御下知上者被停止

同国同後次郎守之非分押領当（任御下知遵行）

嶋内佐浦延元名佐々白魚浦（押乱）

跡下地田畠以下押領物事

副進

一通　御下知案

右、彼子細先度言上畢、而背関東

御下知、行覚重代相伝所領之證

文所領之間、雖被成御教書数ケ

日之間、不及請文陳状上者、被停止守之

押領、行覚相伝證文之上者、無誤御裁許、被成下宣

状共、所詮、為被糺返下地田畠押領物、重言上如

件

元徳元年九月　日

肥前国松浦一族[illegible]九郎三郎源定謹言上

去三月十三日御教書到来間、向菊池城、同十三日於大櫓手致

合戦、対大親類三郎討死、若党次郎三郎手

負之條、於大将軍御前被遂勘文上者、下賜御判欲

為末代亀鏡、仍言上如件

具書之行以　返名依皆[illegible]

段下地内年〻押領物等事

副進
一通御下知案

右此條子細先言上畢、而蒙
御下知訖、旨又重代相傳所領之證
並所領之間、難渋中、御教書數ヶ
日之間、可及訴之陳状上者、被停止之押領、
以相傳證文之旨、無御成敗被處之、
其罪科、被糺返下地、同押領物、重言上如
件

元亨元年九月　日

定三度案

日之間、両方訴陳状上者、被停止彼押領
任相伝證文之旨、無相違、可被成給
共所務、為被成下御下知、目安言上
仍如件
元徳元年九月　日

肥前国松浦一族安恒九郎三郎源定謹言上
右、去三月二日御教書、罷向菊池城、同十一日於搦手致
合戦之刻、定親類弥三郎討死、若党次郎三郎手
負之条、於大将軍御前被遂勘文上者、下賜御判、欲
備末代亀鏡、同手
右、菊池三原之輩可誅伐之由、就被成下御教書、則
馳向菊池武敏以下輩、定親類孫三郎討死、若党
次郎三郎手負上者、賜御判、為備末代亀鏡、言上
如件
建武三年五月　日
在判

佐志有浦蔵人故弘孫子次郎三郎
是申肥前国松浦有浦之文旗訖事
於彼旗一所、為父子討死訖了

如件

建武三年五月日

在判

佐志有浦蔵人披弘孫子次郎三郎
与申肥前国松浦有浦之文書紛失事
於披雄一所為父子討死訖、而
子息与三郎五郎有相遺之失脱
女子押置文書、彼遺乱之所中
同於令致殺戦同状之處不為請
文案状々太刀一腰而得者
相傳之趣、任実正載起請之詞
令致注申之状如件

永徳弐年十二月十二日　沙弥（御判）

公松浦一族御中

肥前国御家人斑嶋源次郎入道行覚謹言上
欲早肯　関東御下知上者被停止同国丹後次郎
定非分押領任代々手継状等旨蒙御成敗志佐浦

肥前国御家人斑嶋源次郎入道行覚謹言上
欲早背 関東御下知上者被停止同国丹後次郎
安非分押領任代々手継状等旨蒙御成敗志佐浦
進止名作山口田地内字浪下地同年々押領物事

の煩注申之状如件

永徳弐年十二月十日　沙弥（御判）

松浦一族御中

肥前国御家人斑嶋源次郎入道行覚謹言上

欲早肯　関東御下知上者被停止同国丹後次郎

定非分押領、任代々手継状等旨蒙御成敗、志佐浦

追元名作々山口田地内四限下地同年々押領物事

右田地者、行覚為嫡々相承而代々相伝無相違之

所領也、而志佐六郎被押妨由緒遠背関東御下知

押領彼田地之間、訴申之処、於二限者被令去退之

畢、至残四限者定押領之由、去年（文保二）五月日載于

被二答状畢、行覚古敵四郎入道浄覚与定已

父直本自内通進一勝之仁也、又被与定同前之證

被停止定非分押領、任重代相伝證文之旨、蒙

御成敗被處定於罪科、為被糺返下地同押物也

言上如件

元応元年七月　日

松浦波多競入三郎源祝謹支言上

右田地者行覺屋女

所領也而吉佐六郎被丢稍由緒違背関東御下知

押領彼田地之間訴申之處於二段者被令去退之

畢至残四段者定押領之由去年（文保二）五月日載

被二答状畢行覺古敵四郎入道浄覺与定三

父直本自内通一躰之仁也又被与定同前之證

被停止定非分押領任重代相傳證文并之旨蒙

御成敗被處定於濫妨科為被糺返下地同押物

言上如件

元應元年七月　日

御成敗被處定於非科為被糺返下地同押領物
言上如件

元應元年七月　日

松浦波多[illegible]人三郎視謹言上

欲早且任道理、且依多年軍功忠、波多
降（大）参事（文）而達愁訴於上聞、亦成軍忠

右於波多三郎入道圓光之一跡者、視重代相傳
而祖父（源太）舎弟孫三郎屬（雖）致自外非據競望之
公庭訴相番京都鎮西公驗歴然也、當方
下向俱供奉以来、鎮西宮方蜂起之間、御敵御方
致於度々毎度御敵誅重不遑也、於視者父祖
相續無其（上）也相傳道理之處、云御代々落居時分
悦々眉處申成安堵御教書、望申降參御免之
存次第也、抱則任押領無其旨、雖望申武降參
無御許容之面目至極也、雖為縱何理非中分
与武無其、且任道理、依定法為達愁訴於上聞
仍文言上如件

永和三年十二月　日

肥前國御家人斑嶋源次郎入道行覺謹言上

欲早肯　同東郷下知之者被停止同國丹後次郎定非分
押領任代々手継状等旨、蒙御成敗、志佐浦近元治於之
山口田地四段下地同年々押領物事

下向、愼拱以来、鎮西宮方蜂起之間、御敵御方

剰於屋者、毎度御敵之條、深重不忠也、於祝著者、父祖

相續屋敷也、相傳道理之旨、就云御代々落居時分

悦之眉目由、成安堵御教書、望申降参御免之

存次第也、然則任御屋敷之旨、雖望申武降参

無御許容之面目至極也、雖為縦門理非不於

与武家方者、且任道理、依定法、為達愁訴於上聞

文言之如件

永和三年十二月　日

肥前国御家人斑嶋源次郎入道行覚謹言上

欲早蒙　関東御下知之者、被停止同国丹後次郎定非分

押領主代[illegible]并佐大等[illegible]御成敗志佐浦[illegible]

如斯申開候

肥前國御家人斑嶋源次郎入道行覚謹言上

欲早背　関東御下知上者、被停止同國丹後次郎定非分押領、任代々手継状等旨、蒙御成敗、志佐浦住人若作々

山口田地内四段下地同年々押領物事

右田地者、行覚為嫡々相承、代々相傳無相違之所領也、而志佐六郎被宛掠構由緒、賜　関東御下知、押領彼田地之間、訴申之處、於二段者被令去退之畢、至残四段者、定押領之由、去年（文保二）五月日載于被二[illegible]合状畢、行覚古敵四郎入道源覚与党之臣、又直本自内通同心一味之仁也、又被与定同前、所詮被停止定非分押領、任重代相傳證文等之旨、蒙御成敗、被處定於罪科、為截飢返下地同押領物、粗言上之如件

元應元年七月　日

無御許容之面目至極也、雖為總門理非于今
与武忠盛、且任道理、依定法為遂越訴於上司
仍言上如件

永和三年十一月　日

[illegible]女[illegible]村[illegible]

志佐六郎被安堵由諸[illegible]関東御下知押領彼田地之間

訴申之處於一段者被令去退之畢至残四段者守押領之

也去年（文保二）五月日載于彼二ヶ條状畢行覺去歟四郎入道源覺

与力之仁又直本自内通源覺一族之仁也又被召寄宮司[illegible]所詮

被停止守非分押領任重代相傳證文等之旨蒙御成敗被

處守於家耕分飢逃下地同押領把粗言上如件

元應元年七月　日

写

於分国中関[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四月[illegible]日　[illegible]
[illegible]下
松浦讃岐守

元應元年七月　日

[illegible]
[illegible]
一 かしく
[illegible]殿下
御陣下
松浦法印[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

御朱印写
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

御朱印写

[illegible]

[illegible]

天下之[illegible]

[illegible]

[illegible]

御[illegible]

三[illegible]

聞[illegible]

[illegible]

出[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

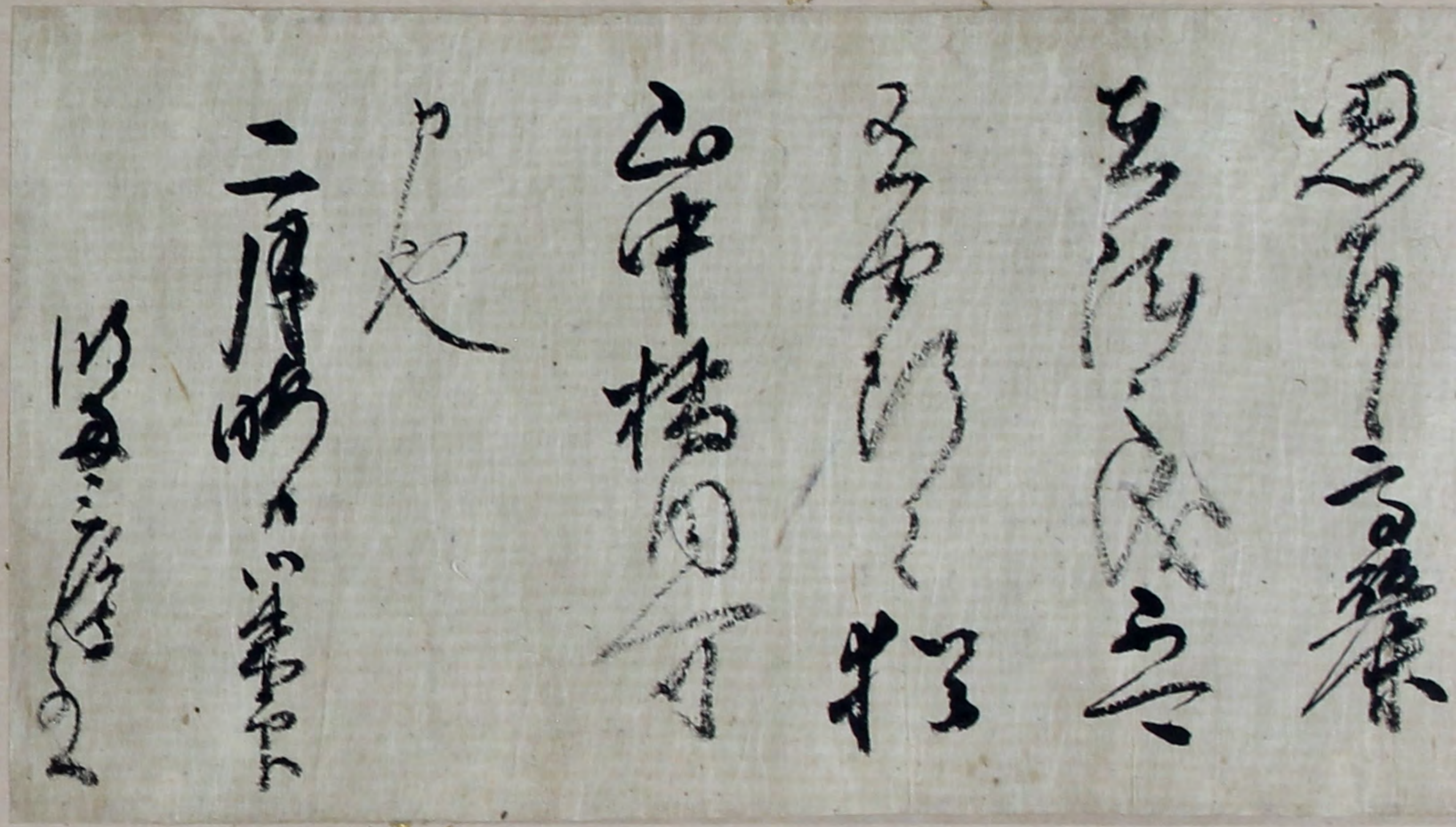
[illegible]

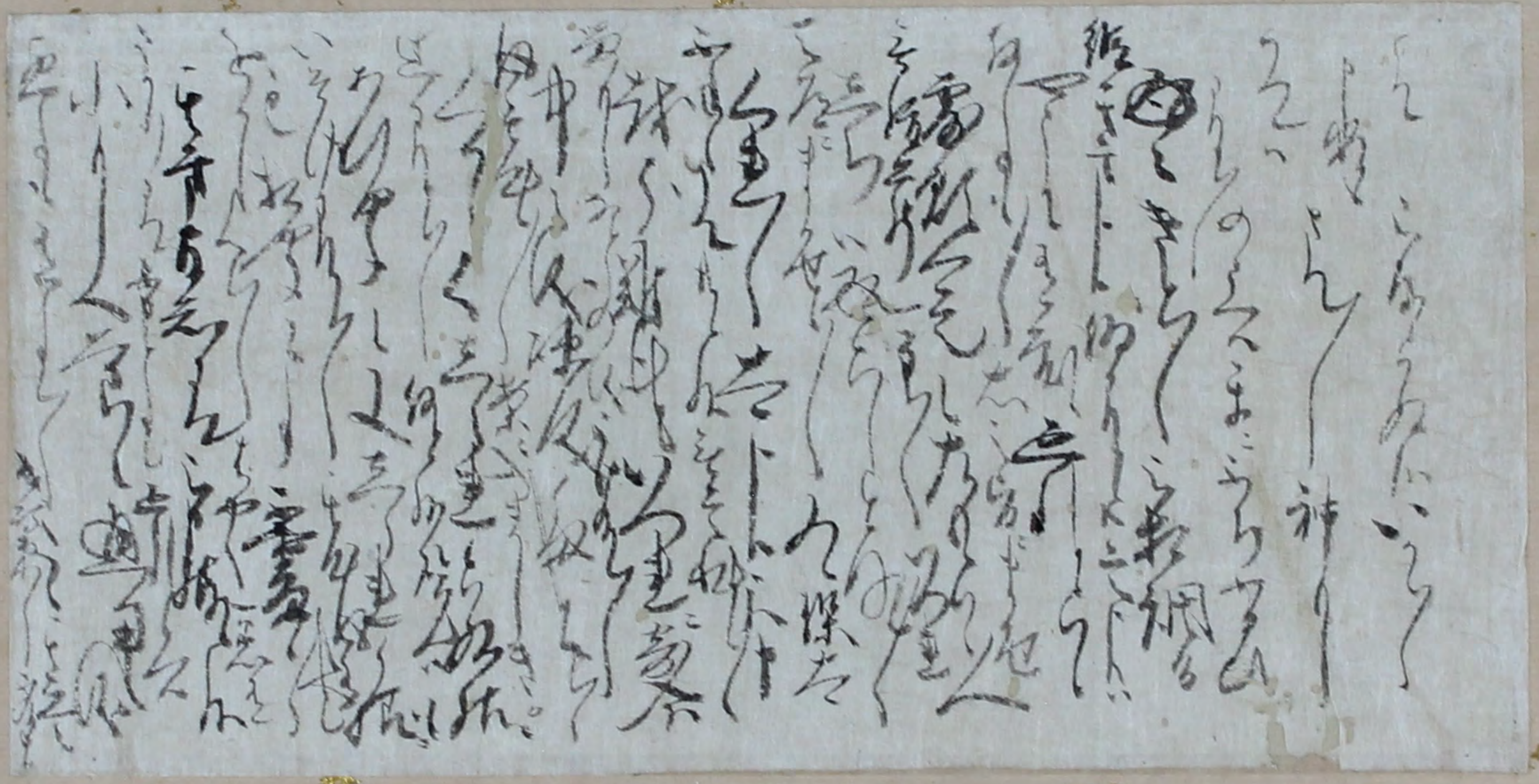
[illegible]三月廿八日

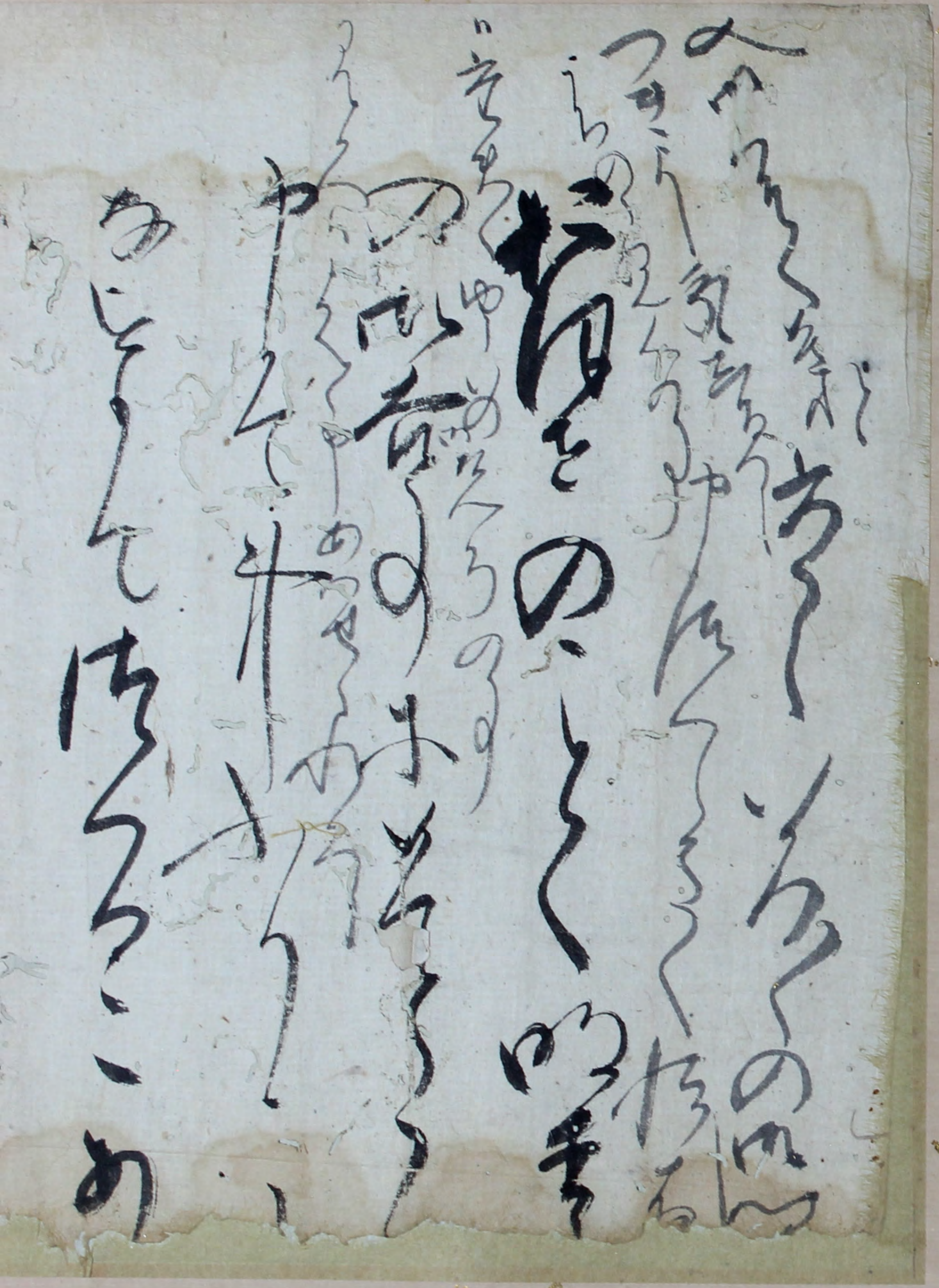
鷹一居[illegible]一
[illegible]来候[illegible]
思[illegible]藤
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二月[illegible]
[illegible]

[illegible]
桐[illegible]若宮[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]







[illegible]
[illegible]しろくの御[illegible]
つ[illegible]気色[illegible]申[illegible]
[illegible]の[illegible]
仰のことく御[illegible]
[illegible]中[illegible]の[illegible]
御所より[illegible]
[illegible]
中[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]して候[illegible]
[illegible]これ[illegible]
[illegible]に申[illegible]
[illegible]かく[illegible]
その[illegible]
これ[illegible]の御局[illegible]
[illegible]
[illegible]入て[illegible]
御文[illegible]
に[illegible]條[illegible]
た[illegible]の[illegible]候
[illegible]中[illegible]

[illegible]

[illegible]をのとく[illegible]
（こゝろえ申め[illegible]のより）
の御[illegible]よりおほせられ
（うらく申あるさゆへ[illegible]）
やかて申さるへく
かしことて候うこめ
へつらはしこれはとりわけ
ちうさいせんにゆんきく
あねしかかくみえ候
そてそのきみにも[illegible]
これしきえんへの御わたり
かりなりおまはれをるる
はけ人てそれやよく
かまへてもし[illegible]
にかたらう[illegible]
たかのところへ[illegible]
あきしやうらうす
なりしく
二月十日
[illegible]
小川

あらしちかくのふく
そもしのまいりて御けに
これしきんえの御やう
かりらへ申候よしかしく
けいは入てくれやく
御文のはしも御さうゐ
にたらう来御所の
たちのしようかしう候
めてたうしやかしく
ありつく三位
二月十九日　まゐる殿
小川